

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北海道財務局長

【提出日】 平成30年12月14日

【四半期会計期間】 第48期第1四半期（自 平成30年8月1日 至 平成30年10月31日）

【会社名】 総合商研株式会社

【英訳名】 SOUGOU SHOUKEN CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 加藤 優

【本店の所在の場所】 札幌市東区東苗穂二条三丁目4番48号

【電話番号】 011(780)5677

【事務連絡者氏名】 取締役企画管理本部長 長岡 一人

【最寄りの連絡場所】 札幌市東区東苗穂二条三丁目4番48号

【電話番号】 011(780)5677

【事務連絡者氏名】 取締役企画管理本部長 長岡 一人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第1四半期 連結累計期間	第48期 第1四半期 連結累計期間	第47期
会計期間	自 平成29年 8 月 1 日 至 平成29年10月31日	自 平成30年 8 月 1 日 至 平成30年10月31日	自 平成29年 8 月 1 日 至 平成30年 7 月31日
売上高 (千円)	5,148,999	5,175,647	17,112,673
経常利益又は経常損失() (千円)	170,183	192,906	296,003
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	118,462	133,898	195,886
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	100,603	140,616	268,119
純資産額 (千円)	2,076,328	2,245,324	2,415,937
総資産額 (千円)	13,407,830	14,017,043	8,429,047
1株当たり当期純利益又は1株当たり四半期純損失() (円)	39.48	44.64	65.30
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	15.5	16.0	28.6

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

また、重要事象等は存在していません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用情勢や所得環境、企業収益に改善傾向が見られ、全体としては緩やかに回復しており、各種政策の効果もあって緩やかな回復傾向が続くことが期待されています。一方で、企業の業況判断はおおむね横ばいとなっており、通商問題の動向が世界経済に与える影響、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響、相次いでいる自然災害の経済に与える影響等も懸念され、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

広告業界及び印刷業界においては、消費者のライフスタイルの変化により電子書籍やインターネット広告などのデジタル市場が拡大し、新聞や雑誌、折込み・ダイレクトメール等の紙媒体の需要減少が続いております。

このような状況のなかで当社グループは、総合的な販売促進支援業として、グループシナジーを発揮するため、関連子会社の経営資源を有効活用した営業活動を推進し、グループの連携・総合力の強化に取り組んでおります。また、企業間の競争や技術革新など、経営環境の変化に対応するため、既存事業である商業印刷では、エリア開拓等を目的とした同業他社との業務提携や、新たな収益モデルを確立するため、商材の開発・販売等を目的とした企業との資本業務提携等を行っております。さらに、年々受注が拡大している年賀状印刷においては、今後の人手不足や個人情報管理の強化を図るため、校正等のシステム化を検討するなど、製造体制の見直しを行っております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、5,175百万円（前年同四半期比26百万円増）となりました。また、営業損失は205百万円（前年同四半期の営業損失は234百万円）、経常損失は192百万円（前年同四半期の経常損失は170百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は、133百万円（前年同四半期の親会社株主に帰属する四半期純損失は118百万円）となりました。

当社グループの利益は、第1四半期連結会計期間が、年賀状印刷の資材・販売促進費等の先行支出により低下、第2四半期連結会計期間が、年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末商戦の折込広告の受注増により増加、第3四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間が、年賀状印刷の固定費のみが発生することにより低下するという季節的変動があります。

なお、当社グループは「情報コミュニケーション事業」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は14,017百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,587百万円増加しました。これは主に、年賀状印刷等の売上に係る受取手形及び売掛金が2,753百万円、年賀状印刷のはがき仕入等に係る原材料及び貯蔵品が1,115百万円、それぞれ増加したことなどによるものであります。

負債合計は11,771百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,758百万円増加しました。これは主に、年賀状印刷に係る材料仕入のため、短期借入金が4,000百万円、支払手形及び買掛金が1,463百万円、それぞれ増加したことなどによるものであります。

純資産合計は2,245百万円となり、前連結会計年度末に比べ170百万円減少しました。これは主に、利益剰余金が163百万円減少したことなどによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発活動の状況及び研究開発費の実績は軽微なため記載しておりません。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年10月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成30年12月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,060,110	3,060,110	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	3,060,110	3,060,110		

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年8月1日～ 平成30年10月31日		3,060,110		411,920		441,153

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年7月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 60,600		権利内容になんら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,998,700	29,987	同上
単元未満株式(注)	普通株式 810		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	3,060,110		
総株主の議決権		29,987	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式28株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年7月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 総合商研株式会社	札幌市東区東苗穂2条3丁目4-48	60,600		60,600	1.98
計		60,600		60,600	1.98

(注)単元未満株式の買取請求により、当第1四半期会計期間において2株の自己株式を取得しております。

この結果、当第1四半期会計期間末日現在の自己株式数は60,630株となっております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成30年8月1日から平成30年10月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年8月1日から平成30年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,047,145	1,445,895
受取手形及び売掛金	1,378,928	4,132,469
商品及び製品	17,749	16,530
仕掛品	21,034	3,417
原材料及び貯蔵品	829,851	1,945,744
その他	160,582	1,428,693
貸倒引当金	709	2,191
流動資産合計	3,454,582	8,970,559
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	811,555	823,515
土地	1,165,851	1,165,851
その他(純額)	1,349,856	1,394,596
有形固定資産合計	3,327,264	3,383,964
無形固定資産		
のれん	7,087	6,644
その他	273,643	279,993
無形固定資産合計	280,730	286,637
投資その他の資産		
投資有価証券	817,229	810,170
関係会社株式	40,000	40,000
その他	589,493	604,218
貸倒引当金	87,227	84,885
投資その他の資産合計	1,359,495	1,369,503
固定資産合計	4,967,490	5,040,105
繰延資産		
社債発行費	6,973	6,378
繰延資産合計	6,973	6,378
資産合計	8,429,047	14,017,043

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	939,558	2,402,836
短期借入金	400,000	4,400,000
1年内返済予定の長期借入金	703,524	678,754
未払法人税等	60,657	4,443
賞与引当金	20,658	61,975
返品調整引当金	-	39,879
その他	490,025	1,018,259
流動負債合計	2,614,424	8,606,148
固定負債		
社債	1,300,000	1,300,000
長期借入金	1,620,440	1,464,174
その他	478,244	401,395
固定負債合計	3,398,684	3,165,570
負債合計	6,013,109	11,771,718
純資産の部		
株主資本		
資本金	411,920	411,920
資本剰余金	452,922	452,922
利益剰余金	1,284,890	1,120,996
自己株式	21,840	21,841
株主資本合計	2,127,893	1,963,998
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	282,963	276,841
その他の包括利益累計額合計	282,963	276,841
非支配株主持分	5,081	4,485
純資産合計	2,415,937	2,245,324
負債純資産合計	8,429,047	14,017,043

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成29年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成30年10月31日)
売上高	5,148,999	5,175,647
売上原価	4,242,872	4,196,844
売上総利益	906,127	978,803
販売費及び一般管理費		
運賃	268,882	302,197
給料及び手当	359,033	369,991
貸倒引当金繰入額	234	1,498
賞与引当金繰入額	39,875	31,468
その他	473,535	479,591
販売費及び一般管理費合計	1,141,092	1,184,747
営業損失()	234,964	205,944
営業外収益		
受取利息	168	120
受取配当金	620	522
受取賃貸料	4,910	5,141
作業くず売却益	3,095	3,569
受取手数料	8,417	10,146
保険解約返戻金	52,756	468
貸倒引当金戻入額	3,173	2,358
その他	4,028	2,676
営業外収益合計	77,170	25,004
営業外費用		
支払利息	11,550	11,254
その他	838	711
営業外費用合計	12,388	11,966
経常損失()	170,183	192,906
特別損失		
固定資産除却損	2,370	745
特別損失合計	2,370	745
税金等調整前四半期純損失()	172,554	193,652
法人税、住民税及び事業税	1,211	1,328
法人税等調整額	55,511	60,485
法人税等合計	54,300	59,157
四半期純損失()	118,254	134,494
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	208	595
親会社株主に帰属する四半期純損失()	118,462	133,898

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成29年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成30年10月31日)
四半期純損失()	118,254	134,494
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,650	6,122
その他の包括利益合計	17,650	6,122
四半期包括利益	100,603	140,616
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	100,811	140,020
非支配株主に係る四半期包括利益	208	595

【注記事項】

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

当座貸越契約

運転資金の効率的な調達を行うため、当座貸越契約を締結しております。

当四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
当座貸越契約の総額	4,400,000千円	6,300,000千円
借入実行残高	400,000千円	4,400,000千円
差引額	4,000,000千円	1,900,000千円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高及び利益の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成29年10月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成30年8月1日至平成30年10月31日)

当社グループの利益は、第1四半期連結会計期間が、年賀状印刷の資材・販売促進費等の先行支出により低下、第2四半期連結会計期間が、年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末商戦の折込広告の受注増により増加、第3四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間が、年賀状印刷の固定費のみが発生することにより低下するという季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成29年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成30年10月31日)
減価償却費	106,592千円	107,896千円
のれんの償却額	442千円	442千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成29年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年9月29日 取締役会	普通株式	30,011	10	平成29年7月31日	平成29年10月27日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の
 末日後となるもの
 該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年8月1日至平成30年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年9月28日 取締役会	普通株式	29,994	10	平成30年7月31日	平成30年10月26日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の
 末日後となるもの
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成29年10月31日)

当社グループは、「情報コミュニケーション事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年8月1日至平成30年10月31日)

当社グループは、「情報コミュニケーション事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成29年 8 月 1 日 至 平成29年10月31日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成30年 8 月 1 日 至 平成30年10月31日)
1 株当たり四半期純損失 () (円)	39.48	44.64
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失 () (千円)	118,462	133,898
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失 () (千円)	118,462	133,898
普通株式の期中平均株式数 (株)	3,000,589	2,999,480

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年12月13日

総合商研株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 前 田 裕 次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 上 卓 哉 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている総合商研株式会社の平成30年8月1日から平成31年7月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成30年8月1日から平成30年10月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年8月1日から平成30年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、総合商研株式会社及び連結子会社の平成30年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。